

2012年1学期
多文化コミュニケーション入門 II
受講生のみなさんへ

一体なんのために、人は他者とそして自分とコミュニケーションするのでしょうか。

みなさんのレポートの中で、クラスで学んだこととして、コミュニケーションをうまくできるようになった、テクニックを知ることができたといったコメントもありました。うまい、上手なコミュニケーションとはどんなものなのでしょう。

相手に自分の考えを正確に伝えられればいいのか。相手の言うことを正確に理解できればいいのか。喧嘩にならずに、相手に批判を伝えればいいのか。

でもそんな円滑でスムーズなコミュニケーションはありえるのでしょうか。自分に対して自分の考えをまとめてみるのも難しい、自分に対して自分の問題点をはっきりさせて示すのも難しいです。他者に対してなら、なおさらでしょう。常に考えは変わっていくし、それをどのように表現化するかもさまざまな選択肢があります。完璧に正確に、相手または自分に自分の考えを示すことはできない。

コミュニケーションというものが不完全でしかありえないとしたら、それでもコミュニケーションしていくことの意味とはなんなのでしょう。私は、自分がここでこうしたい、ここをこうしていきたいというような自分の目標を実現するために、他者そして自分とコミュニケーションするのだと考えています。コミュニケーションすることとは、今の瞬間的な自分の考えをまとめ、他者または自分に示すことです。その考えはすぐに変わってしまうものですが、変わるからこそ今この瞬間をまとめて他者や自分に示す。そうしたらそれに対して他者や自分自身が新しい考えを示してくれる。その繰り返しが、自分の考えを一步一步進め、目標を実現していくために、不可欠だと考えるからです。

こう考えると、コミュニケーションのテクニックを何かで読んで身に付けても意味がないように思えます。今この瞬間でも何か考えをもっていること、その考えを進めた先に少し大きな目標があること、それがまずはじめに大切なのではないのでしょうか。

このクラスでは、限られた時間を使って、一人の他者を知るという目標に向かってコミュニケーションを行ってきました。そのプロセスで、パートナーと自分の考えを少しでも見つけ、またそれが変わっていったとしたら、目標を実現するためのコミュニケーションは、間違いなくできていたと言えると思います。それがどんなにたどたどしく、長い沈黙や、話題の見つからない気まずい時間をはさんでいたとしても。

目標をもつことの次に大切なことは、コミュニケーションに対する次のような思想を持っていることだと思います。(牲川 2011 : 74-75)

表現観

コミュニケーション観

言語を使って語り合うことで、自他に新しい発見があるとともに、相互に変化をもたらすことができる。

人間観

一人の人間は、他と比較して優劣をつけることのできない、代替不可能な唯一の存在なのだ。

言語観

発見・変容をもたらすような語り合いは、完璧に言語を操らなくても可能である。規範にこだわる必要はなく、言語能力が低く思える人もすべて、耳を傾けるべき考えを持っている。

文化観

ある文化圏ごとにすべての人が同じ考え方を持っているわけではない。したがって一人ひとりと表現し合うことで、その人からしか得られない発見がかならずあるはずだ。

こういうコミュニケーションについての考え方（「表現観」と私は呼んでいます）をもっているなら、テクニックがなく、うまくない方法であったとしても、あなたは他者や自分から常に新しい発見をし、自分の目標もさらに納得できるものに変える、そして新しい発見に基づいて目標を実現していけるような、そんなコミュニケーションができるはずです。

相手が同じ「表現観」をもっていないときには、コミュニケーションしあうことが難しいと感じるかもしれません。そんなときは、自分から表現し相手からも語ってもらうことで、相手にも自分と同じように表現することへの希望をもってもらえるよう、できるだけやってみましょう。どうしても無理な場合もあります。それでも、お互いがもっている可能性を信じて、できるところまでやってみることから、お互いの目標をかなえるためのコミュニケーションが始まるのだと思います。

引用文献

牲川波都季, 2011, 「表現することへの希望を育てる——日本語能力教育と表現観教育」『早稲田日本語教育学』9: 73-78.